研究者リーダーシップ・プログラム
「第 2 回 キャリアについて考える」参加レポート

「第 2 回 キャリアについて考える」に参加し、大学教員としての働き方を改めて見つめ直す機会となった。臨床・研究・教育という三つの役割を担う以上、本来であればすべてに全力で取り組むことが理想である。しかし現実的には時間や体力には限りがあり、八方美人のように全てを完璧にこなすことは難しい。だからこそ、自分が何を成し遂げたいのか、その夢を実現するために何が必要なのかを常に考え、取捨選択していく姿勢が重要だと感じた。かつて Mentor の先生から「とにかく自分の好きなことをしなさい」と助言を受けたことがある。当時は自分の“好き”が曖昧だったが、研鑽を積む中で徐々に目標が明確になり、夢を持って仕事を楽しむことの大切さを思い出すことができた。

また、キャリア形成においては与えられたチャンスを生かすことが不可欠だと感じた。慣れ親しんだ環境を手放すことには不安が伴い、新しい世界に飛び込むには勇気が必要である。しかし同じ環境に留まり続けることで向上心が薄れ、仕事が停滞する可能性もある。今いる場所でできることを精一杯行いながら、機会があれば新たな挑戦にも踏み出していきたい。そのためには、どの環境でも通用する確かな実力を身につけておくことが欠かせないと思った。

さらに、研究活動において仲間の存在がいかに重要かを再認識した。同じ志を持つ仲間と語り合うことで新たなアイデアが生まれ、自分の考えを整理する助けにもなる。時に他者の成功をうらやましく思うこともあるが、比較しても何も生まれない。負の感情にとらわれず、仲間の成功を積極的に喜び、自分自身も前向きに努力を続けたい。忙しい日々の中でも、仲間と語り合う時間を大切にしながら、明るく前向きにキャリアを築いていきたいと感じた。